



発行所  
 横浜市中区山下町1番地  
 シルクセンタービル3階  
 325A号室  
 一般社団法人  
 神奈川県保育会  
 発行人  
 萩原敬三  
 題字  
 故内山岩太郎筆

# 神奈川県保育事業大会

令和三年四月二十四日(土)

神奈川県保育事業大会において研究発表が行なわれました。今年度は、コロナ禍ということで発表の様子をビデオで撮影するという形式で行なわれました。第一会場では、関東ブロック研究テーマ「保育の社会化に向けて」～保育の営みをいかに社会に発信するか～に沿って三市が発表を行いました。



はじめに、藤沢市公立保育園研究委員会が「次世代の子どもたちに保育を伝える」と題して発表を行いました。平成二十七年四月に「子ども子育て支援制度」が施行され妊娠・出産期から若者まで切れ目のない総合的な次世代育成支援を行う事を目指し、藤沢市では「藤沢市子ども子育て支援事業計画」が策定されたそうです。地域に開かれた保育園として様々な取り組みを行なっている中で、次世代育成支援に向けての取り組みでもある中学生・高校生の保育体験等をより充実した取り組みにしていこうと、中学生や高校生が、子どもたちと触れ合うことの楽しさ、乳幼児の理解、またより主体的な体験となるよう受け入れの充実を図っているそうです。この

はじめに、藤沢市公立保育園研究委員会が「次世代の子どもたちに保育を伝える」と題して発表を行いました。平成二十七年四月に「子ども子育て支援制度」が施行され妊娠・出産期から若者まで切れ目のない総合的な次世代育成支援を行う事を目指し、藤沢市では「藤沢市子ども子育て支援事業計画」が策定されたそうです。地域に開かれた保育園として様々な取り組みを行なっている中で、次世代育成支援に向けての取り組みでもある中学生・高校生の保育体験等をより充実した取り組みにしていこうと、中学生や高校生が、子どもたちと触れ合うことの楽しさ、乳幼児の理解、またより主体的な体験となるよう受け入れの充実を図っているそうです。この

経験を通して自分は愛されて育った事を感じる事ができる場となるよう取り組みまれてきたそうです。受け入れにあたってのねらいは子どもと関わる事の楽しさや認められている喜びを体験してもらう事としたそうです。具体的には①オリエンテーションに研究委員が参加②参加者向けのレジュメに気をつけることなどをイラスト入りの資料にする③オリエンテーション記録表を作成し参加する学生が特技や子どもたちと行なってみたいことを考え実践する場を持つことにより充実した時間になるような橋渡しをする④ぬいぐるみを使用してのおむつ交換・手遊びを経験して乳幼児の理解につなげるなどの取り組みをして保育体験を実践する事で学生からは、とても楽しい経験になり自信がついた・将来保育士になりたいという気持ちや芽生えたなどの感想があり、この様な働きかけをする事により学生の主体的な活動につながることや命の大切さを実感し保育士の仕

事への関心になることを実感されたそうです。保育体験という機会を意図的に充実させることがお互いのより良い経験として次世代育成に繋がっていくことを感じました。次に平塚市公立保育園が「地域と共に育む子育て支援 地域育児事業検討委員会の担う役割」と題して発表しました。平塚市では、平成二十七年から5年間を計画期とする「平塚市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、子育て支援の充実に取り組んできたそうです。令和二年度から五年間を計画期間とする「ひらか子育て応援プラン」と共に公立園は地域と連携を図りその機能を活用しながら、より良い子育て支援を行うために地域育児事業検討委員会を発足させ、保育園・認定こども園の機能と役割の検討と子育て支援の充実を推進されているそうです。平塚市の子育て支援事業には、園を拠点とした支援事業と専門職としての派遣事業など多岐にわたっています。園を拠点とした支

援では、園庭開放や育児相談、育児講座などフォローが必要。な家庭へ関わり、孤立しないよう支援をしているそうです。専門職としての派遣では、現場の職員が地域のコミュニティグループやサークル活動に出向いていく、またミニミニ運動会・フェスティバルなどでは親子で楽しめるふれあいのゲームや体操などにより楽しい活動が広がっているようです。



現在、地域の子育て支援事業の現状は①家庭ではできない経験や保護者同士の交流ができて②地域から孤立しそうな子育て家庭を支援している事を実感されています。

す。また変化としては①開放保育やミニミニ運動会、地域の子育て広場の参加者数の減少がみられる②育児相談が子どもの成長や子育てだけでなく、母親自身の悩みや不安も出てきた③親子で楽しむより、親が楽しく、また親子分離を望む傾向が出て来ている。などがあるそうです。その背景には①子育て支援の場の選択肢が増加してきた②保護者がコミュニケーションを必要としない③子ども中心の生活ではなく、保護者自身が楽しむ中に子どもがいる④情報入手方法に変化や多様化(SNS等の活用)がみられることが考えられるようです。今後の課題として①保護者の子育ての悩みや不安を受け止め、保護者自身が様々な方法を選択、決定していくことができるよう支援していく②個別支援が必要になる場合、園あるいは特定の保育者だけで問題を抱え込むのではなく、発達支援コーディネーターや保健センターと連携するなど組織的に対応し

ていく③子育て支援を園の担当職員だけにまかせるのではなく園全体の活動として全職員が理解している日常の保育と関連させて多様な人や場との交流関係につなげていく④五感を使った遊びの良さ等、遊びの中にある子どもの学びを保護者の気づきに繋げて育児を楽しめる情報の提供をしていくこと⑤現在行なっている子育て支援のチラシ配布やポスター掲示場所の再確認や市のインスタグラムに投稿する等PR方法を工夫することなどがあるそうです。

そして子育てを取り巻く環境や保護者のニーズが変化していく事を敏感にキャッチし、専門生を活かしながら安心して子育てできるよう、寄り添い、地域の特性を活かした子育て支援を更に充実できるように取り組まれ、コロナ禍では、子育て家庭に向けて動画配信を行うなど新しい試みを実践されていられるそうです。議長より民間園との関わりについて質問がありました。地域育児事業検討委員会は公立園だけの取り組みのようです。公立園でのご苦労もあるだろうから、民間園にも情報発信をされて連携を取られると更に良い取り組みになるのではないかと。との感想を述べられました。子育て支援のために現在、何が必要かを考えながら充実の為に工夫されていることが伺えました。



最後に「地域の資源として子育て支援を充実させるには」保育園と地域の連携の中で保育士部会からの発表がありました。厚木市は近年、「子育て・教育環境日本一」を掲げ行政が子育てサービスの充実を図っているそうです。例を挙げると①こども医療費助成②預かり保育サービス③子育て支援センターの充実など④紙おむつなどの支給等、十三項目の子育て支援を実施しているそうです。二〇一八年には共働き子育てしやすい街全国三位の評価を頂いたそうです。そこで厚木市・民間保育会保育士部会では「地域の資源として子育て支援を充実させるには」をテーマに保育園がどのように連携をとっていくべきなのか、地域の子育て世代一四五世帯を対象にアンケート調査を実施、ニーズ把握をされたそうです。

アンケートを実施した世帯の過半数以上が核家族で、全体的に子育ては楽しいが悩みがあることが伺えたそうです。また保育園で利用したいサービスは、一時預かりの需要が高いようですが、需要に反して受け入れ先が少ないという課題も見えてきたそうです。育児に役立つスキルを求め声も多く、子どもへの接し方や年齢にあった遊びを知りたい・子どもが体を動かすイベ

ントなど、保育所の専門性を活かせるような内容も合ったそうです。また、情報が分かりにくい、情報発信の一元化を望む、何があるかを知らないという意見もあつたことから保育園同士が連携を図り他の保育園の情報も把握し、利用者へ情報提供するなど積極的に発信していく事の必要性を感じられたそうです。アンケートから保護者の方々は市の子育て事業や保育園の地域育児センターについて、かなり周知されている一方で情報の一元化を望んでいることや分かりにくいという意見もあることから保育園同士が連携を図り他園の情報も把握し、利用者へ情報提供をするなど積極的に発信していくことが必要になり、公共施設や保育園同士の連携を活用することにより発信力を強化することで、保護者がさまざまな支援を受けることができると感じられたそうです。保育園をもっと地域の方に身近に感じていただくこと、一時預かりについては、気軽に短い時間でも預

けたいというニーズにどのように応えるかが課題と言えそうです。各園の取り組みなどの情報は個々の保育園で発信されているが必要な方に必要な情報が届いているのか？を考えると、子育て支援や一時預かりなど、他の保育園と連携を図り、受け入れ体制を市全体で捉えるなど現状の把握をすることが重要であるというところを感じられたそうです。今後は人口減少なども視野に入れながら就学前の子育て家庭への支援の拡充を図り、新たな活動を始めることで開かれた保育園としての認識が広がると感じているそうです。その為にも利用しやすい環境と分かりやすい情報提供が必要であり、部会としては、各園が行なっている支援サービスを他の園にも紹介していくこと、またホームページをリンクすることで閲覧者が他園の情報を把握しやすくなるなどなどで地域の保育園が一丸となって取り組む事の重要性を感じていられました。このように保育園間で連携をして

いく取り組みを実現することが保護者のニーズに応え、また安心して楽しく子育てできる環境に繋がっていくと感じました。三者とも地域の子育て支援という保育所の役割について、現状把握をして、地域の特性や環境を活かしながら、何ができるかを前向きに考えていられる姿勢がとても素晴らしいと感じました。コロナ禍の中、何かと制限もありますが、現在だからこそ必要な支援を地域の保育園が協力し取り組むことが大切であることを感じました。



第二会場では、「公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割」とい

う研究テーマに沿って、逗子市、伊勢原市、座間市より発表が行われました。

始めに、逗子市の公立保育所の二園の先生方より、「公立保育園の使命と地域社会での役割―誰もが心豊かに子育てできるまち逗子―」とのテーマでの研究発表がありました。逗子市の概況や、公立保育所で取り組んでいる地域との交流活動の紹介、在園児の家庭や園に見学等にいらした未就園児家庭への保育ニーズについてのアンケート、保育フェアにいらした保育士（保育の仕事に興味のある方）へのアンケートと興味深い内容でした。アンケートの結果では、

の興味視点や、大変と感じていることの具体を知ることができました。また、アンケートの結果から、保護者への日々の保育の伝わりの不足を感じ、日々意識していることも主体の保育と、その子どもの姿の見える化、を課題にあげられ、公立保育園ならではのサービスや地域の中での役割、特色、保育内容のアピール等への取り組みの必要性をおっしゃっていました。

次に伊勢原市保育協議会保育内容研究会の先生方より、「のびのびと楽しめる環境、自分の思いを表現しながら、自己肯定感を育んでいく」というテーマでの研究発表がありました。伊勢原市の概況から始まり、一歳児から三歳児の非認知能力を育むための保育環境や、そのための家庭と保育所の連携についての実際の保育の様子を丁寧に発表してくださいました。低年齢児より、児が充実感に満たされることと、やりたいことが十分に試せる環境の大切さを考えた保育を計画し、個々の発達

利用者のものも、保育園での就労に興味のある方のものについてのどちらも、各市町村で今後の保育園運営を考えていくうえで参考になるもののように思いました。特に利用者へのアンケートの結果では、保育の内容への要望よりも、サービスへの要望や意見の方が多かったことや、その内容について、保護者の子育てへ

た保育を計画し、個々の発達

と集団での育ちの両側面からのアプローチを考えられ、またケースごとに相談しあいながらきめ細かく環境を整えられている様子は参考になりました。「のびのび」の中で、経験や思い込みで偏った見方をせずに育ちを読み取る力の必要性や、子どもたちにとって何が最適なのかを考えていくことの大切さを考えさせられる発表でした。

最後は座間市保育士会研究会の先生方より、「ボール遊びドッジボール大会に向けて」というテーマでの研究発表がありました。座間市では市内の公立・私立保育園の年長児を対象としたドッジボール大会がもう四十年以上も続いているとのこと、その伝統あるドッジボール大会に子どもたちが楽しんで参加できるようにとはつきりとした分かりやすい目的に対しての取り組みの発表でした。ボールの投げ方の指導の工夫や、ボールに親しめる遊びへの取り組みを、先生方が発表の中にも実際にやって示してください

り、わかりやすく、またその研究に対して全市で実践されていることが本当に素晴らしいことだと思えます。また、その保育の成果はしっかりとアンケートやデータの数字に表れておりました。すぐに自園の保育にも取り入れられるような発表でしたので、皆さんの質問もあり、関心の高さを伺わせました。

多様な保育サービスが展開されている中で、公立保育園としての使命や役割をどこに置くのか、またどのようにしていくのかを、各市町村の地域性に合わせて考え工夫されている様子がうかがえました。発表の先生方、ありがとうございました。



## 乳児保育の意義・

### 乳児の発達に応じた保育

令和三年七月二日(金)、元

東京家政大学・大学院教授  
湘南ケアアンドエデュケーション研究所長 増田まゆみ氏をお迎えして行われました。

新型コロナウイルス感染症予防対策といたしまして、入館前の検温チェック・当日の体調チェック・手指消毒を行っていたいただきました。また会場内では、座席の間隔を均等に開け、定期的に空気の入替えを行いました。

研修内容は、主に乳児保育の意義、乳児の発達に応じた保育内容、乳児への適切なかわり、乳児保育の環境、乳児保育の指導計画・記録及び評価の五つでした。はじめに、乳児保育の意義ということで学びの前に今の私を知ることから始まりました。保育者として大切にしていること、今

保育者として知りたいこと・不安なことを書き出しました。

その後は、「はじめに乳児保育の基本」映像を視聴して、心に残ったこと、心に残った場面を書き出しました。他者との意見共有も踏まえて、乳児保育に関する理解を深め合い、適切な環境を構成し、個々の子どもの発達の状態に応じた保育を行う力を養い、他の保育者等に乳児保育に関する適切な助言及び指導ができるよう実践的な能力を身に付けることが大切なことだと感じました。また乳児の発達に応じた保育内容を構築するために乳児への適切なかわり方は何なのか、環境・指導計画はどのようにすれば良いのか考

える時間になりました。乳児の保育の内容と三つの視点。身近な人と気持ちに通

じ合う・身近なものに関り感性を育つ・健やかに伸び伸び育つこの三つの視点から「ねらい」及び「内容」を考えていくことにしてみました。その中で、個人差の大きさ・一人ひとりがどのような環境でどのように楽しみ、興味関心を持っているのかをしっかりと読み取り、個を大切にしたい小集団生活を考えていくことが必要だと感じました。

最後になりますが、本研修で個を大切にしたい保育室の間構成の工夫や遊びと生活において小集団生活が可能となる保育方法を学ばせていただきました。この学んだことを実際に生かすことで子どもたち自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積むことができると思うのでこれから保育者として様々なことに挑戦して、子どもたちと一緒に成長したいと思いました。そして成長したときに本研修をまた受講したいと感じました。本日はありがとうございました。ございました。

# 関東ブロック 保育研究大会 長野

令和三年七月一日(木)、ホクト文化ホール(長野市)にて第六十一回関東ブロック保育研究大会が行われました。コロナ禍での開催となったため、現地開催とライブ配信での開催となりました。

はじめに、オープニングアトラクションといたしましてテノール歌手山崎浩氏、ソプラノ歌手沼田秀美氏によるミニコンサートを行いました。オリジナルソングということので今まで聴いたことのない曲を楽しむことが出来ました。オープニングアトラクションが終わると開会式が行われました。開催県であります長野県大会委員長の歓迎のことばをはじめ、開会宣言が行われ保育研究大会がスタートいたしました。開会式が終わると基調講演が行われました。

基調講演「AIに負けない子どもを育てる」というテーマで国立情報研究所 社会共有知センター センター長・教授 新井紀子氏により行われました。



ロボットは東大に入れるのか。インパクトのある質問から講演がスタートいたしました。そしてどんな風にしてAIを作っているのか。いくつかAIについての質問を投げ

かけられました。昨今、AIという言葉はよく耳にしますが、実際どのようなものが説明してくださいと問われるとなかなか難しく説明できませんでしたが、本講演ではAIをわかりやすく説明していただきました。そしてこの先、予想困難な社会に対して教育及び保育をどのようにしていけば良いのか考えました。

子どもを中心に保育を考える。それは子ども主体Ⅱ自ら学ぶこと。①子ども自身が自らの行動や遊びを決定できる。②子ども自身が自らの行動や遊びを考えるときに選択できる。これらを保育者が保証することが必要である。興味関心から広がる保育、遊びのきっかけは子どもたちのつぶやきから始まる。一人の願いやつぶやきをみんなの願いややりがいに変えていくことで様々な違った興味関心が混ざり合っておもしろい遊びが組み立てられていく。その魅力的な遊びは興味を膨らませ連続性をもたらすことに繋がります。



主体的・対話的で深い学びに繋がっていくように考えられる。

ただ気をつけなければならぬことは、保育者が経験させるのではなく、経験できるように保育者が関わることで大切ですが、子どもと同じ立ち位置でパートナーとして保育を楽しむことが重要である。子どもたちにたくさん経験させてあげたいからと保育者主体の経験が思い返すだけでもいくつもありました。この学びを無駄にすることなく、反省し、考え直すきっかけになりました。この経験を生かして明日からの教育及び保育に繋が

ていきたいと思えます。すべての日程が終わると帰るまで少し時間があつたので事前に調べておいたお店に行ってきました。長野県では馬刺し・蕎麦・野沢菜が有名とのことでした。お店に入つてさつそくメニューを見てみると店長おすすめ「野沢菜の天ぷら」というメニューがありました。お新香として食べていた野沢菜を天ぷらにするという発想は産地ならではの感じ真っ先に注文しました。しばらく待つているとお待ちかねの野沢菜の天ぷらが登場いたしました。一口食べると衝撃を受けました。あの野沢菜が天ぷらということ少し抵抗がありました。が、びっくりするくらい美味しかったです。程よい野沢菜の塩加減にサクサクとした衣が絶妙にマッチしていて、これは飲まずにはいられない絶品の一品でした。ぜひ長野県に行った際には注文してみてください。長野県を後にする前に忘れずにお土産(野沢菜)を買って帰ったことはここだけの話です。

# 県・市町村主管課長との

## 連絡協議会

令和三年九月三十日(木)

県・市町児童福祉主管課長と  
県保育会委員との連絡協議会  
がホテル・プラムにおいて開  
催されました。

はじめに主催者を代表して  
萩原理事長より現在、神奈川  
県保育会においても・不適切  
保育・土曜日保育園・朝夕保  
育の職員配置等について検討  
会を開催して課題に取り組ん  
でいることを述べられました。  
そこで全国でも問題となつて  
いる不適切保育についてこの  
度、内閣府子ども子育て本部  
及び社会福祉法人友愛福祉会  
とおおわだ保育園園長でもいら  
っしゃる馬場耕一郎先生を講  
師としてお迎えして勉強会を  
開催する運びになったことを  
挨拶で述べられました。  
萩原理事長が議長を務めて、  
出席者紹介の後、基調講演と

して「神奈川県における保育  
問題について」の講演に移り  
ました。

はじめに児童福祉法第一  
条  
「全ての児童は、児童の権利  
に関する条約に関する条約の精  
神にのっとり、適切に養育さ  
れること、その生活を保証さ  
れること、『愛され』保護さ  
れること、その心身の健やか  
な成長及び発達並びにその自  
立が図られることその他の福  
祉をひとしく保証される権利  
を有する」として『愛され』  
という文言があることから子  
どもは愛される対象で、保育  
者は子どもを愛さなければな  
らないという事を強調されま  
した。  
また最低基準第九条の二の  
中に「児童福祉施設の職員は、  
入所中の児童に対し、法第三  
十三条の十各号に掲げる行為

その他当該児童の心身に有害  
な影響を与える行為をしては  
ならない」と明記されている  
事を忘れてはならない事にも  
触れられて、このことを年に  
1回は必ず確認することが必  
要であると述べられました。  
不適切な保育の行為類型とし  
て

- ① 子ども一人ひとりの人格  
を尊重しない関わり
- ② 物事を強要するような関  
わり・強迫的な言葉がけ
- ③ 罰を与える・乱暴な関わ  
り
- ④ 子ども一人一人の育ちや  
家庭環境への配慮に欠け  
る関わり
- ⑤ 差別的な関わり

を挙げられ人権侵害にあたる  
言葉かけや関わりは認定され  
るので、大切なのは『愛』が  
あるかどうかであると述べら  
れました。保育者は子どもの  
最善の利益を優先に考えるこ  
とが重要であると述べられま  
した。

ではなぜ不適切保育が生ま  
れるのか・については保育  
士の・多忙な毎日・書類作成

の嵐・保護者対応の困難・休  
憩、休暇の問題が挙げられる  
そうです。コロナ対応での多  
忙、必要な報告書が増加し、  
クレームの対応など、昭和の  
時代と比べると様々な負担が  
増えているといえます。

そこで厚生労働省は不適切  
保育の芽をつんで行くための  
取り組み「保育分野の業務負  
担軽減・業務の再構築のため  
のガイドラインに関する調査  
研究事業」を作成したそうで  
す。「保育士の業務の負担軽減  
に関する調査研究」の事業報  
告書はホームページよりダウ  
ンロードができるとのこと  
です。

また馬場先生は保育の質を  
上げるためにはムダな所を取  
り除くマイナスの発想も重要  
であるとおっしゃられ、お  
おわだ保育園では指導計画を型  
式にとらわれずに保育士同士  
がし共通理解をするためのコ  
ミュニケーションツールとし  
てシンプルな様式にされてい  
るとのことです。

また、保育業務の断捨離と  
して、会議の必要性・伝達の

方法・行事の必要性・有給休  
暇取得について工夫をされて  
いるようで、ヒヤリハット報  
告などは、直接職員を集めて  
5分以内で伝達する時間を設  
け、会議は週1回集まる機会  
を設けて直接伝達する時間を  
大切にしているそうです。メ  
ールの活用など、どのような  
配信方法が伝わりやすいかを  
検討していくことが大切だと  
感じました。

不適切保育の考え方は、保  
育園によって違い、また保育  
士の人権や人格尊重に関す  
る理解が不十分な事により  
認識の違いが生じることが  
あるので共通の問題として  
不適切保育の考え方を統一  
しておくことがとても大切  
とのこと。

そして、防止するには・研  
修会への参加・情報の更新・  
保育士同士による振り返り・  
話合いの場を定期的を持つこ  
との重要性を述べられていま  
した。

定期的に確認して情報が共  
有されているか・今日の関  
わりかたはどうだったか・



などを保育士同士で確認しあうことが大切になります。

人間は過ちをおかすが、改善できるのも人間である。しかし過ちに気づいていても、それを言いだせない雰囲気の方が心配であるとのこと。認識の違いに気づき、お互いに言える雰囲気を作ることが大切になります。そのためには、保育園独自でガイドラインを作成して定期的にチェックしていくことは予防につながるのとことです。また子どもと丁寧に向き合える職員体制の整備をして、保育士の事務負担の軽減を行い悩みなど相談できる仕組みを整備することが大切とのこと。

「おおわだ保育園」では、毎月1回、子どもの目線になる日を設けているそうです。子どもの目の高さで物事を観て子どもの世界を知る事で配慮が必要な点などを確認しているそうです。

人はつい忘れちゃうが、絶対に忘れてはいけないことがあります。

それは一人ひとりの子ども

もが快適で健康に過ごせ、生理的欲求が十分に満たされ安心感を持って過ごすことができ、自分の気持ちを安心して表すことができること、より大切であることです。

馬場先生は最後に、子どもたちを愛することが何より大切で、『愛』があれば子どもにも保護者にも理解してもらえると情熱的に語られています。

子どものこと、そして保育士のこともとても大切にされていらっしやる馬場先生の『愛』を感じる事が出来ました。その後、質疑応答が交わされ、意見交換会では出席の市町の課長より発言がありました。行政への保護者からの苦情などには丁寧に向き合い、感情的にならないよう、双方の意見や事実の確認をしながら対応をされている現状があることを出席して下さった市町の課長よりお話を頂きました。

今後行政が間に入りながら保育園との連携を図ってくださる事を各市町の課長より

ご意見としていただきました。

また神奈川県川上課長より、神奈川県にも直接相談があるそうで、様々な観点よりこの問題にどう取り組み、どのように防ぐのかを法的根拠規制整備を含めて検討していくことが課題であると述べられました。そして、保育士の業務軽減については改善に向けてコンサルタントを派遣する事業を試行しているとのことでした。保育園の課題を洗い出してアクションプランを立て業務の改善を図る事が目的の事業とのこと。

神奈川県としても保育士の働き方について、様々な検討を下さっていることがわかりました。萩原理事長より、これからも様々な問題に対して連絡協議会を通して協議していくことが重要であり意義のある事であることを述べられ、議長座を下りられました。

連絡協議会の最後には、富田相談役より、子どもの事を置き忘れることのないよう、保育園は子どものオアシス

であり続け子どもの味方になって保育をしていかなければならないことを述べられました。

また保育者に対してはコロナ禍で様々な対応に対するストレスがある中で保育にあたることへの労いの言葉を述べてくださいました。

今回の連絡協議会では、「神奈川県における保育の問題について」を深く考える機会となりました。子どもの最善の利益を保証するためにできることから、職員同士で共通認識をもちながら取り組んでいきたいと思いました。

馬場先生が「現在と未来の価値観は違う」  
『現在の常識は、未来の非常識になっているかもしれない』とおっしゃられていたことが印象に残りました。

今後の保育現場がより良く理想の保育環境であり続けられる為に、たとえ状況は変化していても「子どもたちを愛すること」を常に心がけて保育にあたりたいと強く感じる事が出来ました。

新型コロナウイルスに負けない！  
こどもたちの未来のために頑張ろう！

# 乳児保育の指導計画

## 記録及び評価

令和三年十月二十八日、帆

船日本丸訓練センター会議室  
におきまして、保育士等キヤ  
リアアップ研修会(乳児分野)

が開催され、湘南ケアアソ  
シエーション研究所所  
長・元東京家政大学教授でい  
らっしゃる増田まゆみ先生に

「乳児保育の指導計画 記録  
及び評価」をテーマに、ご講  
義いただきました。実際に自  
園の指導計画や記録を持参し  
ての研修でしたので、4つの  
小テーマに沿って、保育指針  
を読み解きながら、計画や書  
類の書式を見直したり、考え  
たり、他園との違いや共通点  
などの意見をもらいあつたり  
と普段気づかないようなこと  
が気づける研修となりました。  
「全体的な計画に基づく指導  
計画の作成」

構成や働き方等に関係なく、

園に係る全ての職員がわかっ  
ているもので、計画からも保  
育と教育の連続性がわかるも  
のになっていくことが必要で

す。乳児の保育(計画)に大切  
なポイントは以下のようにな  
ります。

- ・緩やかな担当制
  - ・「待っていてね ではなく  
待っているよ」(こどもの主体  
性を大切にする)
  - ・保護者(家庭)との関わり  
保護者と喜びあう 喜びが共  
有できる(虐待の抑止にもな  
る)
  - ・子どもへの理解を深める  
(評価)
- 週日案が活動計画とならない  
ような注意も必要です。  
「観察を通しての記録及び評  
価」

記録はできることになった

ことに焦点を当てがちです。  
その過程に、どのように取り  
組もうとしたのか、どこに興  
味を持ち、やりたい気持ちに  
なったのかに焦点をあて、保  
育者がそれをどのように受け  
止めたのかを示します。具体  
的なことばや行動から、子ど  
もの変化を保育者がどのよう  
に読み取ったのが伝わるよう  
な記録が望ましいです。

ここで、ある認定こども園  
の保育の動画を見て、保護者  
に伝える記録を書いてみる研  
修があり、書いた記録を他者  
と見せ合い、良いところを見  
つけて伝えあい褒めあうとい  
うことを行いました。「今日の  
研修で、いいところ探し名人  
となって帰ってね。一人ひと  
りの良さをみつけ、そして輝  
かせる」というお話がありま  
した。良さを認め合って共有  
していくことはとても大切で、  
得意なことから伸ばしていき、  
自信をつけて、苦手なことにも  
挑戦していく保育者の姿を  
子どもも見えて感じていきます。  
子どもと共に驚く気持ちが持

てるようになります。

「評価の理解及び取り組み」  
幼稚園教育要領の中に「カリ  
キュラム・マネジメント」と  
いう概念についての明記があ  
り、各学校が教育目標を実現  
するために、教育課程を計画  
的かつ組織的に編成・実施・  
評価し、教育の質を向上する  
ことを指します。保育所保育  
指針には「カリキュラム・マ  
ネジメント」という言葉は使  
用されていませんが、「保育所  
は、評価の結果を踏まえ、当  
該保育所の保育の内容等の改  
善を図ること」「保育の計画に  
基づく保育、保育の内容の評  
価及びこれに基づく改善とい  
う一連の取り組みにより保育  
の質の向上が図られるよう、  
全職員が共通理解をもって取  
り組むことに留意すること」  
とあります。計画を、実践を  
通して振り返り、見直し、修  
正していくこと(PDCAサ  
イクル)を、園長を中心に全  
ての教職員が参加して実施し  
ていくことが大切です。

「人材育成」  
保育所保育指針には、施設

長の責務とあります。自己評  
価ガイドラインに沿って、学  
びあい、組織力を高め、協同  
による保育を行っていくこと  
が、質の向上につながる専門  
性を高めます。

最後になりますが、先生か  
ら津守真氏著「保育の地平」  
の一節のご紹介をいただき、  
研修が終了いたしました。

その一節とは、「子どもが始め  
た小さなことに目を止めて、  
それに応える保育者となるよ  
うに」でした。この一節に様々  
な想いを感じ、今後の保育者  
としての人生に繋げていきたく  
いと思いました。



・この機関紙は、共同募金配  
分金により発行しております。